

周辺
資産

周辺には「産業」や「歴史」、「環境」分野の学習施設が集積！

2 北九州イノベーションギャラリー



イノベーションをテーマとする国内唯一の施設です。多目的スペースでは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に関する展示を行っています。

開館時間 平日/9:00-19:00 土・日・祝日/9:00-17:00
休館日 毎週月曜日(祝日・休日の場合はその翌日)・年末年始
お問合せ 093-663-5411

3 いのちのたび博物館



生命の進化の道筋と人の歴史を、エンタテインメント性の高い展示で学べる博物館。平成28年4月16日に歴史ゾーンの一部をリニューアルして、筑豊の石炭を背景に、官営八幡製鐵所が建設され、工業都市として発展した北九州の近代史を紹介しています。山本作兵衛最大の炭鉱記録画や八幡製鐵所関連資料コーナーなど見どころ満載です。

開館時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)
休館日 年末年始
お問合せ 093-681-1011

4 北九州市環境ミュージアム



北九州市の公害克服の歴史や、「環境未来都市」として生まれ変わった現在の環境への取り組みなどをわかりやすく紹介しています。また、エコ工作・ゲームなどが常時体験できる、楽しく環境を学ぶ施設です。

開館時間 9:00-17:00(入館は16:30まで)・無料
休館日 毎週月曜日(祝日・休日の場合はその翌日)・年末年始
お問合せ 093-663-6751

北九州エリアマップ KITAKYUSHU AREA MAP



東田エリアマップ HIGASHIDA AREA MAP



※眺望スペースには駐車場がありませんので、東田博物館ゾーン共同駐車場(有料)等をご利用ください。

眺望スペースへは、スペースワールド駅前の歩道橋をご利用ください。

駅から徒歩10分

歩道橋と地下歩道を通ります。

明治日本の産業革命遺産 — 製鉄・製鋼、造船、石炭産業 —

19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、日本は西洋技術の積極的な導入をもとに、日本の伝統技術と融合しながら、「製鉄・製鋼」、「造船」、「石炭」産業を基盤に急速な産業化を成し遂げました。その歴史の歩みを証言する産業遺産群が、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」です。その構成は、九州・山口地域を中心とした8県11市の23資産からなり、北九州市・中間市の官営八幡製鐵所関連施設はその一翼を担っています。



..... 官営八幡製鐵所

“世界遺産のある街”
北九州市

世界遺産
& 東田エリア
関連施設
ガイド



官営八幡製鐵所 旧本事務所 (1899年建設・非公開)

世界遺産

『官営八幡製鐵所』 関連施設

1901年に操業を開始した官営八幡製鐵所は、日本の産業の近代化に貢献し、産業都市・北九州市の発展の礎を築きました。そして今なお創業期の4つの建物が残されており、2015年に世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産となっています。
(写真提供 新日鐵住金株八幡製鐵所・非公開)



官営八幡製鐵所 旧本事務所

官営八幡製鐵所創業2年前の1899年に竣工した初代本事務所です。中央にドームを持つ左右対称形の赤煉瓦建造物で、長官室や技監室、外国人顧問技師室などが置かれました。



官営八幡製鐵所 旧鍛冶工場

1900年に、製鐵所建設に必要な鍛造品の製造を行う目的で、修繕工場と同様、ドイツのG.H.H社の設計と鋼材を用いて建設された鉄骨建造物です。製鐵所の拡張にともなって増築・移築された後、製品試験所として使用されました。



官営八幡製鐵所 修繕工場

1900年、製鐵所で使用する機械の修繕、部材の制作加工等を行う目的で、ドイツのグーテホフマンクスヒュッテ (GHH.) 社の設計と鋼材を用いて建設された現存する国内最古の鉄骨建造物です。創業から110年以上経過した現在でも、修繕工場として稼働を続けています。



遠賀川水源地ポンプ室【中間市】

官営八幡製鐵所第一期拡張工事に伴う工業用水を確保するため、1910年に遠賀川の河口から約10kmの場所に建設された取水・送水施設です。現在も八幡製鐵所の鉄鋼生産に必要な約7割の工業用水を送水している稼働施設です。

官営八幡製鐵所 旧本事務所眺望スペース



世界遺産「官営八幡製鐵所」関連資産は、現在も操業している製鐵所構内に立地しているため一般には公開されていませんが、構成資産のうち旧本事務所(1899年竣工)の外観が眺望できるスペースを整備しています。また、場内には解説案内板や創業当時の古写真などを展示していますので、世紀を超えた産業景観とともにぜひお楽しみください。

開場時間 9:30-17:00(入場は16:30まで)
閉場日 毎週月曜日
(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、
年末年始(12月29日~1月3日))
入場料 無料
お問合せ 北九州市観光情報コーナー
TEL093-541-4189

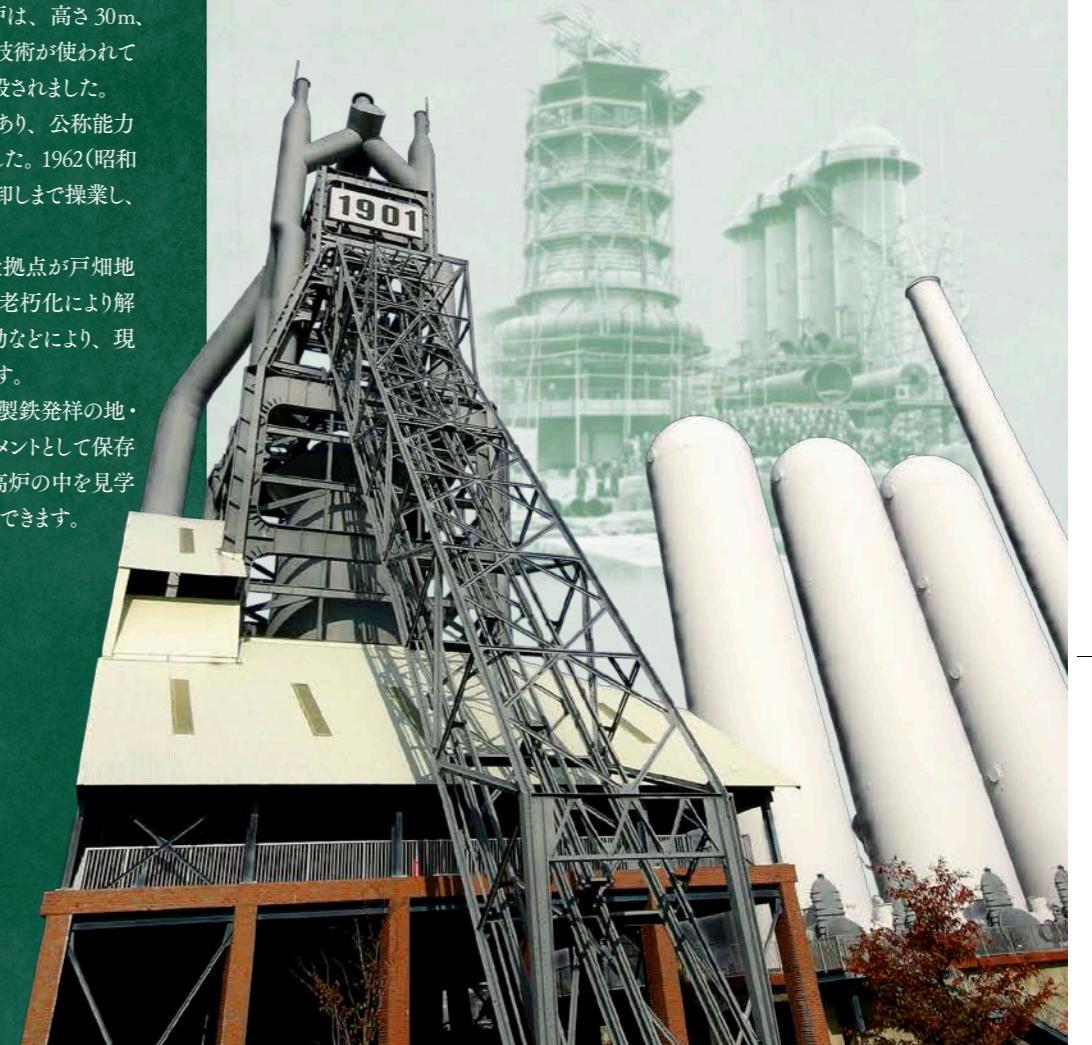
関連資産

製鐵所関連施設 1 東田第一高炉跡

世界遺産に関連する近代化産業遺産

高炉は、鉄鉱石を溶かし、銑鉄を生産する施設です。1901(明治34)年、この地で操業を開始した東田第一高炉は、高さ30m、容積493.9㎡、公称能力160トンで、建設にはドイツの技術が使われていました。最盛期、八幡地区には10基の高炉が建設されました。現在見ることができる高炉は、第10次改修高炉であり、公称能力900トンを誇る日本最初の高圧高炉として建設されました。1962(昭和37)年8月の火入れから1972(昭和47)年1月の吹き出しまで操業し、今日の超高压高炉時代の先鞭をつけた高炉です。銑鉄生産の中心を担った東田第一高炉も、生産拠点が戸畑地区へ移転したことなどによりその役目を終え、一時は老朽化により解体の危機に直面しましたが、保存を求める市民運動などにより、現在は北九州市の史跡として文化財に指定されています。東田第一高炉史跡広場では、日本初の銑鋼一貫製鉄発祥の地・北九州を象徴する八幡製鐵所の第一高炉をモニュメントとして保存しています。高炉の炉前作業を再現した様子や、高炉の中を見学することができ、高炉での「鉄」造りを学習することができます。

北九州市指定文化財(史跡) 東田第一高炉跡 東田第一高炉史跡広場



- 施設概要
 - 敷地面積 約14,000㎡
 - 開館時間 9:00-17:00
 - 休館日 年末年始
 - 入場料 無料
- 主な施設
 - 高炉、熱風炉、トービードカー、転炉、写真パネル
- アクセス
 - 車 北九州市高速道路「枝光ランプ」から3分
 - JR 鹿兒島本線スペースワールド駅から徒歩5分
 - JR所要時間 小倉駅から約10分 / 博多駅から約60分
- お問合せ 北九州市市民文化スポーツ局文化企画課
TEL093-582-2391 FAX093-581-5755

